

聖使徒イアコフの公書

第二章 イアコフ、神及び主イイスス、ハリストスの僕は、散じ處る十二支派の安を問ふ。二我が兄弟よ、爾等種種の試誘に遇ふ時は、之を大なる喜と爲せ、三爾等の信の試は忍耐を生ずるを知らばなり。四惟忍耐は完全なる行爲を顯すべし、爾等が完備純全にして、一も缺くることなからん爲なり。五若し爾等の中に智慧の足らざる者あらば、夫の咎むるなくして、徑に衆に與ふる神に求むべし、然らば彼と與へられん。六唯信を以て毫も疑はずして求むべし、蓋疑ふ者は風に掀げられて碎かるゝ海の浪に似たり。七此の如き人は何をか主より受けんと想ふ勿れ。八貳心の人は其凡の路に於て固からず。九卑き兄弟は其高きを以て誇と爲し、一〇富める者は其卑きを以て誇と爲せ、蓋彼は草の花の如く逝ぎん。二日出で、熟して草を枯らせば、其花は落ち、其容の美しきは亡ぶ、富める者も是くの如く其途に枯る。三忍耐して試誘を受くる人は福なり、蓋其試みられて後、主が彼を愛する者に約せし生命の冕を受けん、三誘はるゝ時、何人も我神に誘はると言ふ勿れ、

蓋神は惡に誘はれず、自も亦人を誘はず。一四卽人各己の慾に引かれ、餌せられて、誘はるゝなり。一五慾既に孕みて、罪を生じ、罪成りて、死を生ず。一六我が至愛の兄弟よ、自ら欺く勿れ。一七凡の善なる施、凡の全備なる賜は、上より、光明の父より降るなり、彼には變易なく、遷移の影もなし。一八彼は己の旨に循ひて、眞實の言を以て、我等を生めり、我等が其造りし物の初實の果と爲らん爲なり。一九故に我が至愛の兄弟よ、凡の人は聽くに速に、言ふに遅く、怒るに遅かるべし。二〇蓋人の怒は神の義を行はず。二一是を以て爾等凡の汚と餘れる惡とを去りて、溫柔にして、裁うる所の言、能く爾等の靈を救ふ者を接けよ。二二且言を行ふ者と爲れ、第聞くのみにして、己を欺く者と爲る勿れ。二三蓋言を聞きて行はざる者は、其本來の面を鏡に視る人に似たり。二四彼は己を視て去り、直に其若何なるかを忘れたり。二五然れども自由の全備なる律法を鑿みて、之に居る者は、彼聞きて忘るゝ者に非ず、乃功を行ふ者と爲りて、其行ふ所に福ならん。二六若し爾等の中誰か自ら敬虔なりと意ひて、己の舌に勦を著けず、乃己の心を欺かば、其敬虔は徒然なり。二七神及び父の前に純潔にして無玷なる敬虔は、卽孤と

嫠とを其患難の間に顧み、且自ら守りて、世に汚されざるに在り。

第二章 一我が兄弟よ、爾等は我が光榮の主イイススハリストスを信じて、貌を以て人を取る勿れ。二蓋若し人金の環を穿め、美しき衣を着て、爾等の會堂に入り、亦貧しき人惡しき衣を着て入らんに、三爾等美しき衣を着たる者を顧みて、之に爾は此に善き處に坐れと曰ひ、貧しき者に爾は彼處に立て、或は此に我が足下に坐れと曰はば、四即爾等己の衷に判斷して、惡しき念ある裁判者と爲るに非ずや。五我が至愛の兄弟よ、之を聽け、神は豈斯の世の貧しき者を選びて信に富ませ、彼を愛する者に約せし國を嗣がしむるに非ずや。六然るに爾等は貧しき者を藐しめたり。富める者は爾等を虐げ、爾等を裁判所に曳くに非ずや。七彼等は爾等が稱へらるゝ美名を瀆すに非ずや。八若し爾等書に載する所の王法、隣を愛すること己の如くせよと云ふを行はば、則善く行ふなり。九然れども若し貌を以て人を取らば、則罪を行ひ、律法に對して犯罪者と爲るなり。○全律法を守りて、其一を犯す者は、全律法を犯すなり。二蓋淫する母れと言ひし者は、亦殺す母れと言へ

り、然らば爾淫せずと雖、殺すこと有らば、亦律法を犯す者と爲るなり。三爾等言ふ所、行ふ所、自由の律法に由りて審判を受けんとする者の如くすべし。三蓋矜恤を施さざりし者は審判せらるゝ時に矜恤を獲ざらん、矜恤は審判に勝つなり。四我が兄弟よ、若し人自ら信ありと謂ひて、行なくば、何の益かあらん、信能く彼を救ふか。五若し兄弟或は姉妹裸にして、日用の糧に乏からんに。六爾等の中に或人、之に安然として往け、温にして飽くを得よと曰ひて、其身に需むる者を之に與へずば、何の益かあらん。七是くの如く信も亦行なければ、自ら死せる者なり。八人或は言はん、爾に信あり、我に行ありと、請ふ、爾が行を兼ねざる信を我に示せ、我は我が行に由りて、我が信を爾に示さん。九爾神は一なりと信ず、斯く爲すは善し、魔鬼も亦信じ、而して慄く。○虚誕の人よ、爾は行を兼ねざる信の死せる者なるを知らんと欲するか。二我等の先祖アウラムが、其子イサクを祭壇の上に獻げて、義とせられしは、行に由るに非ずや。二三爾見るか、信は彼の行を助け、又行に由りて、信は全きを獲たり。二三斯く聖書の云ふ所應へり、アウラムは神を信ぜり、此れ彼に歸して義と爲れり、且神の友と稱へられたり。二四然らば

爾等之を觀る、人の義とせらるゝは行に由りてなり、唯信に由るには非ず。二五同じく妓婦ラアフも、偵使を納れて、之を他の途より歸らしめて、義とせられしは、行に由るに非ずや。二六蓋靈なき體の死せる者なるが如く、斯く行なき信も亦死せる者なり。

第三章 一我が兄弟よ、多くの者師と爲る勿れ、我等が鞫を受けんこと更に嚴しきを知ればなり。二蓋我等皆多くの愆を爲す。若し人言に愆なくば、是れ全き人にして、其全體に勒を着くるを得るなり。三視よ、馬の我等に馴はん爲に、我等勒を其口に置きて、其全體を馭す。四視よ、又舟に大なる者にして、且烈しき風に逐はると雖、小き舵を以て、舵師の望む所に運轉せらる。五是くの如く舌も小き體なりと雖、大なるを以て誇る。視よ、微なる火は物を燃すこと何ぞ多き。六舌も亦火なり、不義の飾なり、舌は我が百體の中に在りて、能く全體を拈し、能く我が一生の範圍を燃して、己は地獄より燃さる。七蓋凡の禽獸昆虫鱗介の類は制せらる、且人類に制せられたり。八惟舌は、人能く之を制するなし、此れ抑へ難き惡にして、死の毒を滿つる者なり。九我等之を以て神及び父を祝讚し、亦之を以て神の肖

に循ひて造られたる人人を誑ふ。一〇一の口より祝讚と誑とは出づ、我が兄弟よ、此くの如き事あるべからず。二一豈泉は一の穴より甘き及び苦き水を出すか。三我が兄弟よ、無花果の樹は橄欖を結び、或は葡萄の樹は無花果を結ぶを得んや。是くの如く亦一の泉は鹹き及び甘き水を出す能はず。三爾等の中智慧及び見識ある者は誰ぞ、善き行に由りて、智なる溫柔を以て、其爲す所を彰すべし。一四然れども若し爾等心の中に苦き媚嫉と忿争とを懷かば、誇る勿れ、眞實に對して誑る勿れ。五此の智慧は上より降るに非ず、乃地に屬し、靈に屬し、魔鬼に屬する者なり。六蓋媚嫉と忿争と在る所には、亂と凡の悪しき事と在るなり。七上よりする智慧は第一に潔淨、次に和平、温良、柔順にして、矜恤及び善き果を充て、偏視せず、偽善ならず。八義の果は、和平を行ふ者に、和平を以て播かる。

第四章 一爾等の中に戦鬪と争競とは何よりするか、此より、即爾等の百體の中に戦ふ諸慾よりするに非ずや。二爾等貪れども、得ず、殺し嫉めども、及ぶ能はず、争ひ鬪へども、得ず、求めざるが故なり。三求むれども、受けず、爾等の慾の爲に費さんとしても、妄に求むるが故

なり。四姦淫の男女よ、爾等は、世の友たるは、是れ神に對して仇たるを知らざるか、故に世の友と爲らんと欲する者は、神の仇と爲るなり。五爾等或は聖書の言ふ所を虚しと意ふか、曰く、我等の中に居る神は、愛して嫉に至ると、六然れども更に大なる恩寵を賜ふ、故に曰く、神は誇る者に敵し、謙る者に恩寵を賜ふと。七是を以て爾等神に服し、惡魔に敵せよ、然らば彼爾等より逃れん。八神に近づけ、然らば、彼爾等に近づかん。罪人よ、爾等の手を淨くせよ、二心の者よ、爾等の心を潔くせよ。九苦め、哀め、哭け、爾等の笑は哀に、歡は憂に變ずべし。一〇主の前に自ら卑くせよ、然らば彼爾等を高くせん。一一兄弟よ、相謗る勿れ、其兄弟を謗り、或は其兄弟を議する者は、律法を謗り、又律法を議するなり、爾若し律法を議せば、律法を行ふ者に非ず、乃審判者なり。三立法者及び審判者、能く救ひ能く滅す者は一なり、爾他人を議する者は誰ぞ。三今聽け、爾等、今日或は明日我等某の邑に往き、一年彼處に居り、貿易して利を獲ると言ふ者よ、一四爾等は明日如何にならんを知らず、蓋爾等の生命は何ぞ、暫く現れて遂に消ゆる霧なり。五爾等はこれに易へて云ふべし、若し主の旨に適ひ、又我等生さば、此或は彼を爲さん

と。六爾等驕に依りて高ぶる、凡そ此くの如き高慢は惡なり。七故に善を行ふを知りて、之を行はざる者は罪あり。

第五章 今聽け、富める者よ、爾等に臨む所の苦難の爲

に泣き號べ。二爾等の財は朽ち、爾等の衣は蠹くひ、三爾等の金銀は銹びたり、其銹は證を爲して、爾等を攻め、且火の如く爾等の肉を蝕まん、爾等は末の日の爲に財を積めり。四視よ、爾等の田を穫りし工人に爾等が給せざる値は籲び、且刈りし者の呼聲は主「サワオフ」の耳に至れり。五爾等地に在りて奢り樂めり、爾等の心を養ひしこと、屠宰の日に備ふるが如し。六爾等義者を罪に定めて、之を殺せり、彼は爾等を拒まざりき。七兄弟よ、恒に忍びて、主の臨むに及べ。視よ、農夫は地の貴き産を待ちて、是が爲に久しく忍び、前後の雨を得るに迫ぶ。八爾等も恒に忍び、爾等の心を堅くせよ、蓋主の臨むこと邇づけり。九兄弟よ、相怨む勿れ、恐らくは罪に定められん、視よ、審判者は門の前に立つ。一〇我が兄弟よ、主の名に依りて言ひし諸預言者を以て、苦難と恒忍との式とせよ。一一視よ、我等は忍耐せし者を福なりとす。爾等會てイオフの忍耐を聞き、

且主の如何に之を終へしを見たり、蓋主は至仁にして矜恤なり。二我が兄弟よ、首として誓を發する勿れ、或は天を以て、或は地を以て、或は他物を以て誓ふ勿れ、爾等惟是を以て是と爲し、否を以て否と爲すべし、恐らくは罪に陥らん。三爾等の中に苦しむ者あらば、祈禱すべし、樂しむ者あらば、聖詠を歌ふべし。四爾等の中に病む者あらば、教會の長老等を招くべし、彼等主の名に依りて、彼に油を傳けて、彼の爲に祈禱すべし。五信に由る祈禱は病める者を救ひ、主は彼を起さん、若し彼罪を行ひしならば、赦されん。六爾等互に己の過を認め、又互に祈れ、瘡されん爲なり、蓋義者の熱切なる祈禱は多くの力あり。一セイリヤは我等と同情の人なりしが、雨ふらざらんことを切に祈りたれば、地に雨ふらずして三年六月を歴たり。八復祈りたれば、天は雨を與へ、地は其産を生ぜり。九兄弟よ、若し爾等の中に眞實の道より迷へる者ありて、孰か之を正しきに反らしめば、二〇知るべし、罪人を其迷へる道より反らしめし者は、靈を死より救ひ、多くの罪を掩はん。

聖使徒ペトルの前公書

第二章 ペトル、イイスス、ハリストスの使徒たる者は、

ポント、ガラティヤ、カッパドキヤ、アシヤ、及びワイファ
ニヤに散じ處る旅客、二神父の預知に依りて、神の成聖を以
て、順服の爲、及びイイスス、ハリストスの血の灑を受く
る爲に選ばれたる者に書を達す。願はくは恩寵と平安とは
爾等に増さんことを。三祝讚せらるゝ哉神、我が主イイス
ス、ハリストスの父、彼は其大なる慈憐に依りて、イイスス
ハリストスの死よりの復活を以て、我等を活くる望、四朽
ちず玷れず、衰へざる嗣業の爲に復生せしめたり。是の嗣業
は爾等の爲に天に藏められたり、五蓋爾等は末の時に顯
れんとする救の爲に、神の能力を以て、信に由りて、護ら
るゝなり。六爾等此に因りて喜べ、今之を要せば、種種の
試誘に因りて、暫く憂ふることありと雖、七是れ特に
爾等の試みられたる信は、火に試みらるとも滅ぶべき黄
金よりも至と貴くなりて、イイスス、ハリストスの顯現の時
に稱讚尊貴光榮を得ん爲なり。八爾等イイスス、ハリスト
スを見ずして愛し、今彼を見ざれども、信じて、言ひ難く、

且光榮なる喜を以て喜ぶ、九爾等の信の目的、即靈
の救を獲ればなり。一〇此の救は、爾等が蒙る恩寵を
預言せし諸預言者、之を探り、且尋ねたり、二彼等は其衷
に在りしハリストスの神が、預めハリストスの苦及び
之に従ふ光榮の事を證して、何の時又如何なる時を示し
しかを究めたり、三彼等黙示に因りて、此等の事は己の爲
ならずして、我等の爲なるを知れり、即今天より遣され
し聖神に藉りて福音せし者が爾等に傳へし事、天使等も
窺はんと欲する所の事なり。三故に爾等の心の腰を束
ね、儆醒して、イイスス、ハリストスの顯現の時に、爾等に賜
ふ所の恩寵を全く望め。四孝順なる子の如くにして、先
の蒙味の時の慾に效ふ勿れ、五即爾等が召したる聖なる
者に效ひて、己も亦凡そ行ふ所に聖なれ。六蓋録して云
へるあり、我聖なるに因りて、爾等も聖なれと。七爾等
も貌を以て人を取らずして、各人を其行に由りて審判す
る者を父と名づけば、惕れて、世に寄る時を度れ、八蓋知
る、爾等が先祖より傳はりたる空しき度生より、贖はれし
は、壞るべき金銀を以てせしに非ず、九乃疵なく玷なき
羔の如きハリストス、一〇創世の先より預定せられ、末の時
に及びて爾等の爲に現れし者の貴き血を以てせしなり、

二、爾等彼に由りて神を信ぜり、蓋神は彼を死より復活せしめ、彼に光榮を賜へり、爾等が神に於ける信と望とを有たん爲なり。三、爾等聖神に由りて、眞實に循ふを以て、己の靈を兄弟を愛する偽なき愛の爲に淨めて、潔き心を以て篤く相愛せよ、三蓋爾等は朽つる種よりするに非ず、乃朽ちざる者より、生きて世に存する神の言に由りて重生せられたり。四蓋凡の肉體は草の如く、凡の人の光榮は草の花の如し、草枯れて、其花は落ちたり、五然れども主の言は世に存す、此れ即爾等に福音せられし言なり。

第二章 一、故に爾等凡の惡心、凡の詭譎、偽善、嫉妬、凡の誹謗を去りて、二、甫めて生れし赤子の如く、純良なる靈智の乳を慕へ、之に由りて、救に長ぜん爲なり、三蓋爾等は主の仁慈なるを味ひたり。四、爾等は彼、即人に棄てられ、神に選ばれたる、貴き活ける石に就きて、五、自も亦活ける石の如く、己を以て屬神の堂、聖なる司祭班を建てよ、イイススハリストスに由りて、神の悦び納るゝ所の屬神の祭を獻げん爲なり。六蓋聖書に録して云く、視よ、我選ばれたる貴き屋隅の石をシオンに置く、彼を信ず

る者は羞を得ざらんと。七、故に彼は爾等信ずる者の爲には寶、信ぜざる者の爲には工師が棄てたる石にして、屋隅の首石と爲りし者の、躓の石、礙の磐なり、八、彼等の言に従はずして、之に躓く、彼等亦此が爲に定められたり。九、然れども爾等は選ばれたる族、王たる司祭班、聖なる人民、神の業となりし民なり、是れ爾等を幽暗より其奇妙なる光に召したる者の盛徳を彰さん爲なり、〇爾等素民に非ざりしが、今は神の民なり、素矜恤を蒙らざりしが、今は矜恤を蒙りし者なり。一、至愛の者よ、我爾等を旅客及び寄寓者として求む、靈を攻むる肉慾を防ぎて、三、異邦人の中に善き行を爲せ、彼等今爾等を誘りて、惡者と云へる者が、爾等の善き所爲を見て、眷顧の日に於て神を讚榮せん爲なり。三、故に爾等、主の爲に、凡の人の定制に服へ、或は王に於てせよ、其上に在るを以てなり、四、或は有司に於てせよ、其彼より惡を行ふ者を罰し、善を行ふ者を賞する爲に遣さるゝを以てなり。五、蓋我等が善を行ひて、愚人の無知の言を止むるは、神の旨なり、六、我等自由の者なりと雖、惡を蔽はん爲に自由を用ゐる者に非ず、神の僕なるが故なり。七、衆人を敬ひ、諸兄弟を愛し、神を畏れ、王を尊め。八、僕よ、畏を以て主人に服へ、唯善良の者、柔和

もの者に於けるのみならず、苛刻の者にも然すべし。一九蓋若し人無法の苦を受け、神を念ひて憂に堪へば、此れ神の嘉する所なり。二〇若し爾等罪を犯して、撻れて、之を忍ばば、何の譽かあらん、然れども若し善を行ひて、苦を受けて忍ばば、此れ神の嘉する所なり。二一爾等の召されたるは此が爲なり、蓋ハリストスも我等の爲に苦を受けて、我等に式を遣せり、我等が其跡に隨はん爲なり。二三彼は罪を行はず、其口に詭譎なかりき。三彼は詬られて詬を反さず、苦を受けて、喝さざりき、乃之を義なる審判者に託せり。二四彼は我等の罪を自ら己の身に任ひて、木の上に擧げたり、我等が罪を絶ちて、義に生きん爲なり、彼の傷に由りて爾等醫されたり。二五蓋爾等は素(牧者)なき迷へる羊の如くなりしが、今は爾等の靈の牧者及び監督に歸れり。

第三章 一婦よ、爾等も亦其夫に順へ、或は彼等の中に言に服せざる者あらば、言に由らずして、其婦の行に由りて獲られん爲なり、二即爾等の貞潔にして敬虔なる行を見るに因りてなり。三爾等の飾は、髪を辯み、金を著け、或は妝ふ事の如き外部の者なるべからず、四乃心

の内の隠れたる人、溫柔恬靜なる神の朽ちざる華美を妝ふ者なるべし、此れ神の前に貴し、五蓋昔神を頼みし聖なる婦も、斯く己を飾りて、其夫に順へり、六サルラがアウラムに順ひて、之を主と稱へしが如し、爾等若し善を行ひて、何の難き事をも畏れずば、彼の子たるなり。七夫よ、爾等も亦智慧を以て其婦と偕に居り、之を遇ふこと弱き器の如く、之を敬ふこと恩寵の生命を共に嗣ぐ者の如くせよ、爾等の祈禱に阻礙なからん爲なり。八之を要するに、爾等皆意を同じくし、體恤を爲し、兄弟を愛し、憐憫を施し、懇切を盡くし、謙遜を護れ。九惡を以て惡に、或は詬を以て詬に報ゆる勿れ、反りて祝福せよ、爾等祝福を嗣がん爲に召されたるを知ればなり。一〇蓋生命を愛し、佳き日を見んと欲する者は、其舌を惡より、其口を詭譎の言より止むべし、一惡を避けて善を行ひ、和平を求め之を追ふべし。三蓋主の目は義人を顧み、其耳は彼等の祈を聴く、然れども主の面は惡を爲す者に對ひて、彼等を地より滅さんとす。三爾等若し務めて善を行はば、誰か爾等を害せん。一四然れども若し義の爲に苦を受くとも、爾等福なり。彼等の威嚇を懼るゝ勿れ、亦憂ふる勿れ。五主神を爾等の心に聖なりとせよ、凡そ爾等の望

の由縁を問ふ者に、溫柔と敬虔とを以て答へんことを常に備へよ。六且玷なき良心を有て、爾等を誣ひて、悪者と爲す所以に由りて、爾等のハリストスに於ける善き行を誇る者の辱められん爲なり。七若し神の旨に適はば、善き行の爲に苦を受くること、悪しき行の爲にするより愈れり。八蓋ハリストスも一次我等の罪の爲に、義者にして不義者に代りて、苦を受けたり、我等を引きて神に詣らん爲なり、彼は身にて殺され、神にて生かさされ、九此の神を以て下りて、獄に在る諸神に宣傳せり、二〇即昔ノイの日、方舟の造らるゝ際、神が恒忍を以て待ちたる時に於て順はざりし諸神なり、蓋其方舟には少數の者、即八人のみ水より救はれたり。二此に象れる洗禮、即肉體の穢を除くに非ずして、玷なき良心を神に求むる事は、今我等をも救ふ、イイススハリストスの復活に由りてなり、三彼は天に升りて、神の右に在り、諸天使と權柄と能力とは彼に服せり。

第四章 一ハリストスは爾等の爲に肉體にて苦を受けたれば、爾等も亦此の意を以て自ら鎧ふべし、蓋肉體にて苦を受くる者は、罪を息めしなり、二是れ肉體に寓れる

餘日を、己に人の慾に循はず、乃神の旨に循ひて度らん爲なり。三蓋爾等が過ぎたる度生の時に、異邦人の旨に従ひて、邪侈、縦慾、沈湎、饕餮、醜むべき拜偶像を行ふこと足れり、四故に彼等は、爾等が彼等と偕に、此の放蕩の極に與らざるを異みて、爾等を誘る。五彼等は、幾もなくして生者及び死者を審判せんとする者に答を爲さん。六蓋死者にも福音せられしは、彼等人に循ひて、身にて審判を受けたれども、神に循ひて、神にて生きん爲なり。七一切の終は邇づけり、故は謹慎し、且儆醒して祈禱せよ。八最要する者は、篤く相愛するに在り、蓋愛は多くの罪を拵ふ。九互に旅人を館して、吝む勿れ。一〇神の種種の恩寵の忠信なる家宰の如く、各其受けし賜を以て、互に務めよ。一人若し言はば、神の言として言へ、人若し務めば、神の賜ふ力を盡くして務めよ、神が凡の事に於て、イイススハリストスに由りて、讚榮せられん爲なり、光榮と權能とは彼に無窮の世に歸す、アミン。三至愛の者よ、試の爲に爾等に遣さるゝ火の如き苦を異しみて、異しき事爾等に遭へりとする勿れ、三乃ハリストスの苦に與るに因りて喜べ、其光榮の顯現の時にも喜びて、樂しまん爲なり。二四若し彼等ハリストスの名の爲に爾等を誇らば、

爾等福なり、蓋光榮の神、神の神は爾等に止る、
彼等に因りて彼は瀆され、爾等に因りて榮せらる。五唯
爾等の中に兇殺者、或は竊盜、或は行惡者、或は猥に人
の事に與る者として、苦に遇ふ者あるべからず、六然れ
ども若し「ハリストイアニン」として之に遇はば差づる勿れ、
乃此の分の爲に神を讚榮せよ。七蓋神の家より始めて、
審判を行ふ時至れり、若し先づ我等より始めば、神の福音
に順はざる者は、其終如何にぞや、八若し義者僅に救
を得ば、不虔者と罪人とは何處にか立たん。九故に神の旨
に循ひて苦を受くる者は、善を行ひて、其靈を信すべ
き造物主に託すべし。

第五章 一爾等の中の長老等に、我は同長老、且ハリス
トスの苦の證者、及び顯れんとする光榮と共に與る者
として求む、二爾等に在る神の群を牧して、之を監督する
には、強ひて爲すに非ず、乃願に因り、又神の旨に順ふ
に因り不潔の利の爲に非ず、乃熱心に因りて爲せ、三又神
の業に主たるに非ず、乃群の式と爲れ、四然らば牧長の
顯れん時に、爾等凋まざる光榮の冕を得ん。五又爾
等少き者は、長老等に順へ、且皆相順ひて、謙遜を衣よ、

蓋神は誇る者に敵し、謙る者に恩寵を賜ふ。六故に爾
等神の全能の手の下に自ら卑くせよ、彼が期に届りて爾等
を高くせん爲なり。七凡そ爾等が慮る所を彼に託せよ、
蓋彼は爾等顧みるなり。八謹慎徹醒せよ、蓋爾等の敵
なる惡魔は、吼ゆる獅の如く、巡り行きて、呑むべき者を尋
ぬ。九爾等信を堅くして之を禦げ、世に在る爾等の兄弟も
同じき苦に遇ふを知ればなり。一〇諸の恩寵の神、ハリ
ストスイイスを以て我等を其永遠の光榮に召しし主は、
願はくは爾等が暫時の苦の後に、自ら爾等を全くし、
堅くし、強くし、動かざらしめん。二願はくは光榮と權能
とは彼に無窮の世に歸せん、アミン。三我は、シルアン、
意ふに忠信なる爾等の兄弟に託して、斯の短言の書を送り
て、勸を爲し、且爾等の立つ所の恩寵が神の眞の恩寵
なるを證せり。三ワイロンに在る爾等と同じく選ばれ
たる教會、及び吾が子マルコ爾等の安を問ふ。四爾等愛
の接吻を以て、互に安を問へ。願はくはハリストスイイス
に頼りて平安は爾等衆人に在らんことを、アミン。

聖使徒ペトルの後公書

第一章 シモンペトル、イエスス、ハリストスの僕及び使徒たる者は、我等の神及び救主イエスス、ハリストスの義に頼りて、我等と共に同じく貴き信を獲たる者に書を達す。二願はくは恩寵と平安とは、神及びイエスス、ハリストス我等の主を識るに於て、爾等が増さんことを。三彼の神聖なる能力より、我等に凡ぶ生命及び敬虔に要する事は賜はりたり、光榮と盛徳とを以て我等を召しし者を識るに由りてなり、四蓋此の光榮盛徳に依りて、我等に貴くして大なる許約は賜はりたり、我等が此を以て世に在る慾の敗壞を脱れて、神の性に與る者と爲らん爲なり。五是の故に爾等一切の勉勵を用ゐて、爾等の信に徳を加へ、徳に知識を加へ、六知識に節制を加へ、節制に忍耐を加へ、忍耐に敬虔を加へ、七敬虔に兄弟の親睦を加へ、兄弟の親睦に愛を加へよ。八蓋若し此等爾等の中に在りて、彌益きは、爾等が我等の主イエスス、ハリストスを識るに於て進まざるなく果を結ばざるなきを致さん。九此等の無き者は、盲にして、目を蔽ひ、其舊き罪より潔まりし事を忘れたり。〇故に兄弟よ、

益勉勵して、爾等の召されし事、及び選ばれし事を堅固にせよ、此等を行ひて、永く躓かざらん。二蓋此くの若くば、爾等に我等の主救主イエスス、ハリストスの永遠の國に入る恩恵は裕に加へられん。三故に爾等此を知り、且既に受けたる眞實に堅められたれども、我は恒に爾等に此等の事を記念せしむるを息めざらん。三我は此の幕に在る時、此の記念を以て爾等を勵ますは、當然の事なりと思へり、四蓋我は我が幕を脱せんことの近きを知る、我が主イエスス、ハリストスの我に示ししが如し。五然れども我は我が去らん後にも爾等の常に此等を記念することを勉めん。六蓋我等は、巧なる虚説に従ひて、爾等に我が主イエスス、ハリストスの能力と降臨とを告げしに非ず、乃其威光を親しく見たる者として然せり。七蓋至大なる光榮より聲の彼に來りて、此は我の至愛の子、我が喜べる者なりと曰ひし時、彼は神父より尊貴と光榮とを受けたり。八天より來りし此の聲は、我等彼と偕に聖なる山に在る時、之を聞けり。九且我等に更に確なる預言者の言あり、爾等がこれを暗き處に耀く燈として、天明け、晨星の爾等の心に出づるに至るまで顧みるは善し。二〇首として知るべし、凡の聖書の預言の己に由りて解く能はざるを、二二蓋預言は

未だ嘗て人の旨に由りて出でしはあらず、乃神の諸聖人が
聖神に感ぜられて之を言ひしなり。

第二章 一民の中には偽の預言者も有りき、斯く爾等の
中にも偽の師は起らん、彼等は淪亡の異端を入れ、彼等を
贖ひし主宰に背きて、自ら速なる淪亡を取らん。二多く
の者は彼等の放蕩に従はん、彼等に因りて眞實の道は謗讟
を受けん。三彼等は貪婪に由りて、飾言を以て爾等を餌
せん、彼等の審判は昔より定まりて遅はらず、彼等の淪亡
は寤ねず。四蓋神は罪を犯しし諸天使を容さず、乃地獄
の幽暗の繚綫に縛り、之を刑の爲に護らしめて、審判を待た
しめ、五又古世を容さず、乃不虔者の世に洪水を施して、
唯義を傳へしノイの一家八人を救ひ、六又ソドムゴモラの
諸邑を滅に定め、之を灰に變じて、後來の不虔者の鹽と爲
し、七唯義なる口ト、無道の者の淫亂の行に倦みたる者を
救へり、八蓋此の義人は彼等の中に居り、其不法の行を
見且聞きて、日日其義なる靈を傷めたり。九然らば則主
は敬虔の者を誘惑より救ひ、不義の者を刑の爲に護りて、
審判の日を待たしむるを知る、○特に肉に循ひて汚れたる
慾を行ひ、首長を藐んずる者に於て然りと爲す。彼等は

狂妄にして我意を張り、尊者を誇るを畏れず、二然るに
天使等は權威と能力とを以て彼等に勝ると雖、主の前に
之を誇りて罪するを爲さず。三彼等は本性の無知なる獸、
執はれて滅さるゝ爲に生れたる者の如く、其知らざる所を
誇りて、己の敗壞を以て滅されん。三彼等是不義の報を
受けん、蓋彼等日日宴樂を以て歡と爲し、既に自ら汚し、
又爾等を汚す者にして、爾等と共に宴して、其詐騙を以て
樂と爲す。四彼等は目は色慾を充て、罪を犯して已めず、
彼等は堅からざる靈を惑はす、其心は貪に慣れたり、是
れ詛の子なり、五彼等は正しき道を離れ、迷ひてワオソル
の子ワラムの蹤に従へり、即不義の利を愛して、六己
の不法の爲に責められし者なり。言なき牝驢は人の聲を
出して、預言者の狂へるを止めたり。七彼等は水なき泉な
り、暴風に逐はるゝ雲及び霧なり、永遠の幽暗は彼等の爲に
備へられたり。八蓋彼等は誇りたる虚誕を語りて、迷へる
者の中より僅に脱れたる者を肉慾と淫亂とに誘ふ。九之
に自由を與へんと約すれども、自ら敗壞の奴隷たり、勝た
るゝ者は勝つ者の奴隷たればなり。二〇蓋若し彼等我が主
救主イエススハリストスを識るに因りて、世の汚を脱れ、
復之に纏はれて勝たるゝ時は、彼等の爲に後の患は先より

更に甚し。二彼等義の道を識りて、其傳へられし聖なる
誠まことに反かんよりは、寧之を識らざるを美とす。三彼等は
正ただに諺ことわざに云ふ所に應へり、犬は其吐きたる物に反り、豕
は滌あらひ潔きよめられて復また泥どろに臥す。

第三章 至愛の者よ、我今此の第二の書を爾等に達す、

此等を以て記念せしめて、爾等の正潔なる意を勵ます。二
爾等が先に聖なる預言者の言ひし言、及び爾等の諸使徒
の傳へし主救主の誠を記憶せん爲なり。三首として知るべ
し、末の日に嘲る者來り、己の慾に従ひて行ひて四云は
ん、彼は降臨の許約は安にか在る、蓋列祖の寝りしより
このかた、萬物は造成の始より存することはくの如しと。五
蓋彼等は知るを欲せず、太初に神の言に由りて天あり、
又地は水より水を以て合成せられたり、六此に緣りて當時の
世は水に淹されて滅びたり。七然るに今の天地、同じき言
に由りて護らるゝ者は、火の爲に存せられて、審判及び不
敬虔の人の淪亡の日を待つなり。八至愛の者よ、此の一事は
爾等に隠さるべからず、主に在りては一日は千年の如く、
千年は一日の如し。九主が其許約を行ふは、或者が遅はる
と思ふ如く遅はるに非ず、乃人の滅ぶるを欲せず、衆人
の悔改に至らんことを欲して、我等を永く忍ぶなり。〇然

れども主の日の來るは、盜の夜來るが如くならん、當時天
は響ひびきて逝り、體質は燃え毀れ、地及び之に載する事物は
皆焚みなやけ盡つきん。二斯くの如く此等皆毀れんとするに由り、一
二爾等、即彼の天焚かれて毀れ、燃ゆる體質は鎔とけんと
する神の日の來るを待ち且慕ふ者は、聖行と敬虔とに於て
如何なる者となるべきか。三然れども我等は彼の許約に依
りて、新天新地、即義の居る所を俟つ。四故に至愛の者
よ、爾等之を俟ちて、玷けがなく、疵きずなく、平安にして彼の前
に現れんことを勉めよ、五且我等の主の恒忍を以て救を
爲せ、我が至愛の兄弟パウエルも、彼に賦あたへられし智慧ちえに循
ひて、爾等に書せしが如く、云亦其凡の書に之を述ぶる
が如し、其中に曉り難き處あり、學ばず又堅からざる者は、
他の聖書の如く、是をも亦強ひ解きて、自ら敗亡を取るな
り。七至愛の者よ、爾等預め此の事を知りて慎め、恐
らくは無道の者の迷に誘はれて、己の堅固を失はん。一
八乃恩籠及び我等の主救主イイススハリストスを知る
知識ちしきに成長せよ。願はくは光榮は今も永世の日も彼に歸せ
ん、アミン」。

聖使徒神學者イオアンの第一公書

第二章

一生命の言に關して、始より有りし事、我等の聞きし事、我等の目に見し事、觀究めし事、我等の手に捫りし事、二蓋生命は顯れたり、而して我等は之を見、之を證し、此の永遠の生命、父と共に在りて、我等に顯れし者を、爾等に傳ふ、三我等が見し事、聞きし事を以て爾等に傳ふるは、爾等をして我等に共與せしめん爲なり、我等の共與は父及び其子イエスス、ハリストスに在り。四我等が此の書を爾等に達するは、爾等の喜の全からん爲なり。五夫れ我等が彼より聞きて、爾等に傳ふる所の福音は、乃神は光なり、其中に一も暗なきことなり。六若し我等彼に共與ありと云ひて暗を行かば、則我等謊りて、眞實を行はざるなり。七若し我等光を行かば、彼が光に在るが如し、則我等互に共與あり、而して彼の子イエスス、ハリストスの血は我等を悉くの罪より潔む。八若し我等罪なしと言はば、則自ら欺きて、眞實は我等の中に在らず。九若し我等の罪を認めば、則彼は信且義にして、我等の罪を赦し、我等を悉くの不義より潔めん。〇若し我等罪を犯さ

ざりきと云はば、則彼を以て謊る者と爲すなり、其言は我等の中に在らず。

第二章

一我が小子よ、我が之を書して爾等に達するは、爾等が罪を犯さざらん爲なり、若し人罪を犯さば、我等に父の前に保惠師あり、即義人イエスス、ハリストスなり。二彼は我等の罪の爲に挽回の祭なり、第我等の爲のみならず、亦全世界の爲なり。三我等若し彼の誠を守らば、是に由りて彼を識れるを曉る。四我彼を識れりと云ひて、其誠を守らざる者は、謊る者にして、眞實は其中に在らず。五彼の言を守る者は、神の愛實に其衷に全くせられたり、是に由りて我等が彼に在るを曉る。六彼に居ると言ふ者は、彼が行ひし所に循ひて行ふべし。七至愛の者よ、我が書して爾等に達するは、新なる誠に非ず、乃舊き誠、爾等が始より有てる者なり。舊き誠とは、爾等が始より聞きし言なり。八復我新なる誠を書して爾等に達す、彼に在りても爾等に在りても眞實なる者なり、蓋暗は過ぎ、眞の光は已に照る。九自ら光に在りと言ひて、其兄弟を憎む者は、尚暗に在るなり。〇其兄弟を愛する者は光に居り、其衷に躓なし。一其兄弟を憎む者は、暗に在

り、暗に歩み、何に往くを知らず、暗は其目を盲まし
し故なり。三小子よ、我書して爾等に達す、爾等の罪は彼
の名に縁りて赦されたればなり。三諸父よ、我書して爾等
に達す、爾等太初より在る者を識りたればなり。少者よ、
我書して爾等に達す、爾等凶悪者に勝ちたればなり。童子
よ、我書して爾等に達す、爾等父を識りたればなり。四
諸父よ、我書して爾等に達せり、爾等太初より在る者を識
りたればなり。少者よ、我書して爾等に達せり、爾等剛健に
して、神の言爾等の衷に居り、爾等凶悪者に勝ちたれば
なり。五世をも世に在る物をも愛する勿れ、人世を愛すれ
ば父に於ける愛其衷に在らず。六蓋凡そ世に在る者、
即肉體の慾、目の慾、度生の驕は、父よりするに非ず、
乃世よりするなり。七世も其慾も逝ぐ、唯神の旨を行ふ
者は永く存す。八小子よ、末の時至れり、爾等がアンテ
イハリスト」來ると聞きし如く、今己に多くのアンティハ
リスト」あり、是に由りて我等は末の時なるを知る。九彼等
は我等より出でたり、然れども我等に屬せしに非ず、蓋若
し我等に屬せしならば、乃我等と偕に止りしならん、然
れども彼は出でたり、是に由りて皆我等に屬するには非ざる
こと見れたり。二〇且爾等は聖なる者より傳膏せられて、知

らざる所なし。二我が書して爾等に達せしは、爾等が
眞實を知らざるに因るに非ず、乃之を識り、且凡の眞
の眞實に由らざるを知るに因りてなり。三誑る者は誰ぞ、
イイススのハリストスたるを認めざる者に非ずや、是れ即
アンティハリスト」、父及び子を認めざる者なり。三凡そ子
を認めざる者は父をも有たず、子を承け認むる者は、父をも
有つなり。二四故に爾等が始より聞きし者は爾等に居るべ
し、若し始より聞きし者爾等に居らば、爾等も亦子及び父
に居らん。二五彼が我等に約せし許約は、乃永遠の生命な
り。二六我は爾等を惑はす者の事に就きて、此を書して爾等
に達せり。二七且爾等が彼より受けし所の傳膏は爾等に居
るなり、故に爾等は人の教ふるを要せず。乃此の傳膏は
爾等に凡の事を教へ、且其眞にして偽ならざるに因り
て、其爾等に教へし如く彼に居れ。二八小子よ、今彼に居れ、
彼が顯れん時に我等の毅然たらん爲、彼が臨まん時に彼の
前に愧ぢざらん爲なり。二九爾等若し彼の義なるを知らば、
乃凡そ義を行ふ者の彼より生れしを知れ。

第三章 一觀よ、父は何等の愛を我等に賜ひて、我等に神の
子と稱へられ、且爲るを得しめしぞ。世は我等を識らず、彼

を識らざるが故なり。二至愛の者よ、我等今神の子たり、然れども若何にならんか、尙未だ顯れず。我等唯其顯れん時、彼に肖たる者と爲らんことを知る、蓋其眞の狀に於て彼を見ん。三凡そ彼に於ける此の望を懷く者は己を潔くす、彼の潔きが如し。四凡そ罪を行ふ者は不法を行ふなり、罪とは不法なり。五爾等はその顯れしは、我等の罪を負はん爲にして、彼には罪なきを知る。六凡そ彼に居る者は罪を犯さず、凡そ罪を犯す者は未だ彼を見ず、未だ彼を識らざるなり。七小子よ、人に惑はざる、勿れ。義を行ふ者は義なり、彼の義なるが如し。八罪を行ふ者は惡魔に由る、蓋惡魔は始より罪を犯せるなり。神の子の顯れしは、特に惡魔の工を毀たん爲なり。九凡そ神より生れし者は罪を行はず、蓋其種は彼の衷に存す、彼の罪を犯す能はず、神より生れしが故なり。一〇神の子と惡魔の子とは斯く知らる、凡そ義を行はざる者は神よりするに非ず、其兄弟を愛せざる者も又然り。一一蓋是れ爾等が始より聞きし所の命なり、すなはちわれらあひあい、乃我等相愛すべし、二カインの如くすべからず、彼は凶惡者に縁りて、己の弟を殺せり、何胡れぞ之を殺したる、己の行は惡しく、弟の行は義なりしに因りてなり。三我が兄弟よ、若し世爾等を憎まば、奇しむ勿れ。一

四我等は死より生命に移りしを知る、兄弟を愛すればなり、兄弟を愛せざる者は死に居るなり。五凡そ其兄弟を憎む者は殺人者なり、爾等は凡の殺人者は永遠の生命を其衷に有たざるを知る。六彼は我等の爲に其生命を捐てたり、此によりて我等は愛を知れり、我等も兄弟の爲に生命を捐つべし。七然るに此の世の産業を有つ者にして、其兄弟の乏しきを見て、彼の爲に己の心を閉さば、神の愛安んぞ其衷に在らん。八我が小子よ、我等愛するに言を以てし、或は舌を以てする勿く、乃行と實とを以てすべし。九此に由りて我等は眞實に屬するを知り、且彼の前に我等の心を安んず。一〇蓋若し我が心我等を責めば、況や神をや、蓋神は我等の心より大にして、知らざる所なし。二至愛の者よ、若し我が心我等を責めずば、我等神の前に毅然たり、三且求むる所は彼より受く、蓋彼の誠を守り、彼の悦ぶ所を行ふ。三彼の誠は乃我等其子イイススハリストスの名を信じ、且彼が我等に誠めし如く相愛するに在り。四彼の誠を守る者は彼に居り、彼も亦此に居るなり。彼の我等に居るは、其我等に與へし所の神に由りて之を知る。

第四章 至愛の者よ、概神を信する勿れ、乃其神の

神に屬するや否やを試みよ、蓋多くの偽預言者は世に出でたり。二神の神と迷謬の神とを此くの如く知れ、凡そイイスハリストスが肉體を以て來りしことを承け認むる神は神に屬するなり。三凡そイイスハリストスが肉體を以て來りし事を承け認めざる神は神に屬するに非ず、乃爾等が來らんと聞きし所、今已に世に在るアンティハリスト」の神なり。四小子よ、爾等神に屬し、而して彼等に勝てり、蓋爾等に居る者は世に居る者より大なり。五彼等は世に屬す、故に其言ふ所も世に屬す、世は彼等に聽く。六我等は神に屬す、神を識る者は我等に聽く、神に屬せざる者は我等に聽かず。此に由りて我等は眞實の神と迷謬の神とを識るなり。七至愛の者よ、我等相愛すべし、蓋愛は神に屬す、凡そ愛する者は神より生れて、神を知るなり。八愛せざる者は神を識らず、蓋神は愛なり。九神は其獨生の子を世に遣して、我等をして彼に由りて生命を得しむ、此を以て神の我等に於ける愛は顯れたり。○我等が神を愛せしに非ず、乃彼は我等を愛し、其子を遣して、我等の罪の爲に挽回の祭と爲せり、此に於て愛あり。一至愛の者よ、若し神が此くの如く我等を愛せば、我等も相愛すべし。

一二神を見し人未だ嘗て非ず。若し我等相愛せば、神は我等に居り、其愛は我等の衷に全くせられしなり。三彼既に其神を我等に與へたれば、我等此に由りて彼に居り、彼も我等に居るを知る。四父が其子を遣して世の救主と爲ししことは、我等已に之を見且證す。五イイススを神の子と承け認むる者は、神は彼に居り、彼も神に居るなり。六神の我等に於ける愛は、我等已に之を知り、且信ぜり。神は愛なり、愛に居る者は神に居り、神も彼に居るなり。七愛は我等の衷に全くせられて、我等をして審判の日に毅然たるを得しむ、蓋我等の此の世に在りて、行ふ所は彼の行ひしが如し。八愛の中には懼なし、乃全き愛は懼を外に逐ふ、蓋懼の中には苦あり、懼る者は未だ愛に全くせられざるなり。九我等は彼を愛すべし、蓋彼は先づ我等を愛せり。二〇人若し我神を愛すと言ひて、其兄弟を惡まば、謊る者なり、蓋見る所の兄弟を愛せざる者は、焉ぞ見ざる所の神を愛するを得ん。二神を愛する者は、亦其兄弟を愛すべし、此の誠は、我等之を彼より受けたり。

第五章 凡そイイススのハリストスたるを信する者は、神

より生れたるなり、凡そ生みし者を愛する者は、彼より生れ

し者をも愛す。二我等若し神を愛し、其誠を守らば、此に由りて我等が神の諸子を愛するを知る。三蓋神の誠を守るは、是れ乃神を愛するなり、其誠は難からず。四蓋凡そ神より生れし者は世に勝つ、世に勝ちたる勝は、乃我等の信なり。五世に勝つ者は誰ぞ、イイススが神の子たるを信する者に非ずや。六此れ即水と血と神とを以て來りしイイススハリストスなり、獨水のみならず、乃水と血とを以てせり、而して證を作す者は神なり、神は眞實なるに因る。七蓋天に在りて證を作す者三、父なり、言なり、聖神なり、此の三者は一なり。八又地に在りて證を作す者三、神なり、水なり、血なり、此の三者は一に歸す。九若し我等人の證を受けば、神の證は更に大なり、蓋是れ神が其子の爲に證せし所の證なり。○神の子を信する者は、己の衷に證あり、神を信ぜざる者は、彼を誦する者と爲す、蓋神が其子の爲に證せし所の證を信ぜず。二此の證は、即神は我等に永遠の生命を與へ、而して此の生命は彼の子に在ること是なり。三神の子を有つ者は生命を有ち、神の子を有たざる者は生命を有たず。三我之を書して、爾等神の子の名を信する者に達せり、爾等が永遠の生命を有つを知らん爲、又神の子の名を信せん爲なり。一四

我等彼の旨に循ひて求むれば、彼は我等に聽く、是れ我等が彼の前に毅然たる所なり。五凡そ彼が我等の求むる所を聽くを知らば、亦我等の彼に求むる所を得るを知る。云若し人其兄弟が死を致さざる罪を犯すを見れば、求むべし、然らば神は彼即死を致さざる罪を犯す者に生命を與へん。死を致す罪あり、我之が爲に祈るべしと云はず。七凡の不義は罪なり、但し死を致さざる罪あり。八我等は凡そ神より生れし者の罪を犯さざるを知る、乃神より生れし者は己を守り、凶悪者は彼に觸れず。九我等が神に屬し、世は皆惡に伏するは、我等之を知る。一〇又知る、神の子來りて、我等に光及び智慧を與へたり、我等が眞の神を識りて、其眞の子イイススハリストスに居らん爲なり。此れ即眞の神及び永遠の生命なり。小子よ、己を偶像より護れ、アミ

聖使徒神學者イオアンの第二公書

「**老父**は選を蒙りたる貴婦及び其諸子、我が實に愛する所、**第我**のみならず、凡そ眞實を識りたる者が、**二我等**に居り、且我等と偕に世に居らんとする眞實に緣りて、愛する所の者に書を達す。三願はくは神父、及び父の子主**イイス**スハリストスよりする恩寵と慈憐と平安とは、眞實及び愛に於て、**爾等**と偕在らんことを。四我爾が諸子の中に、**我等**が父より誠を受けし如く、眞實を行ふ者あるを見て、甚喜べり。五貴婦よ、今も我が爾に勸むるは、新なる誠を書して爾に達するが如きに非ず、乃我等が始より有つ所の者なり、即我等相愛すべし。六愛とは我等が彼の誠に循ひて行ふことはなり。此の誠は、乃爾等が之を行ふ爲に始より聞きし所なり、七蓋多くの惑はす者世に入りて、**イイス**スハリストスが肉體を以て來りし事を承け認めず、此れ乃惑はす者なり、「**アン**テイハリスト」なり。八爾等自ら慎め、我等が勞せし所を失はざらん爲、乃全き賞を獲ん爲なり。九凡そ罪を犯してハリストスの教に居らざる者は、神を有たず、ハリストスの教に居

る者は、父及び子を有つなり。〇人若し此の教を佩びずして爾等に來らば、彼を家に納るゝ勿れ、其安を問ふ勿れ。一蓋彼の安を問ふ者は、其惡しき行に與るなり。二我尚多く書して爾等に達すべき事あれども、紙と墨とを以てするを欲せず、乃爾等に至りて、口を以て口に對ひて言はんことを望む、爾等の喜の全からん爲なり。三選を蒙りたる爾の姉妹の諸子は、爾の安を問ふ、「アミン」。

聖使徒神學者イオアンの第三公書

一 老父は至愛なるガイ、我が實に愛する者に書を達す。二 至愛の者よ、我祈る、爾が康健にして、且凡の事に進歩するは、爾が靈の進歩するが如くならんことを。三 蓋兄弟來りて、爾が忠信の事、如何に爾が眞實を行ふ事を證せし時、我甚喜べり。四 我には我が諸子が眞實を行ふを聞くより大なる喜なし。五 至愛の者よ、爾が兄弟と旅客とに爲す所は、忠信にして爲すなり。六 彼等は教會の前に爾の愛を證せり。爾若し神に合ふが若く彼等の旅行を助けば、其行ふ所善し。七 蓋彼等は異邦人より何をも取らずして、主の名に緣りて出でたり。八 故に我等此くの如き者を接くべし、眞實に同勞する者とならん爲なり。九 我書を教會に達せり、然れども彼等の中に長たるを好むデイフトレフ我等を納れず。〇 故に我若し至らば彼等の事を憶ひ起さん、彼は惡言を以て我等を謗り、且此を以て足れりとせずして、自も兄弟を接けず、接けんと欲する者にも之を禁じて、教會より逐ふ。一 至愛の者よ、惡に效ふ勿れ、乃善に效へ。善を行ふ者は神に屬し、惡を行ふ者は神を

見ざりき。三 デイミトリイに至りては、衆及び眞實皆彼の爲に證す、我等も亦證す、爾等は我が證の眞なるを知る。三 我尚多く書すべき事あれども、墨と筆とを以て之を書して爾に達するを欲せず、四 乃速に爾を見て、口を以て口に對ひて言はんことを望む。五 平安なれ、諸友爾の安を問ふ、爾諸友に各其安を問へ「アミン」。

聖使徒イウダの公書

イウダ、イイスス、ハリストスの僕、イアコフの兄弟は、
神父に聖にせられ、イイスス、ハリストスに護らるゝ、召されたる者に書を達す。二願はくは慈憐と平安と仁愛と爾等に増さんことを。三至愛の者よ、我、甚我が共與の救の事を爾等の爲に書するを願ひて、一次聖徒に傳へられし信の爲に力を竭すべき勸を書して、爾等に達するを必要と爲せり。四蓋或不敬虔の人人、昔より此の刑に預定せられたる者、我が神の恩寵を易へて邪慾の縁と爲し、獨一の主宰神及び我が主イイスス、ハリストスを拒む者は、潛に入りたり。五我が爾等已に之を知る者に憶ひ起さしめんと欲するは、乃主が民をエギペトの地より救ひて後に、信ぜざりし者を滅し、六又己の本位を護らずして、其任處を離れたる諸天使を、永遠の縲綫を以て、幽暗の下に、大なる日の審判の爲に守れること、是なり。セソドムゴモラ及び近鄰の諸邑、此と同じく淫亂を行ひ、異色を縦にせし者が、永遠の火の刑を受けて、鑑戒と立てられし如く、八此の夢想者、肉體を汚し、首長を藐んじ、尊者を誘る者も、此くの如く

ならん。九天使首ミハイルは惡魔と論じて、モイセイの屍を争ひし時、敢て誘りて之を罪せざりき、惟日へり、主は爾に禁ずべしと。○然れども此の輩は知らざる所を誘り、本性に依りて、無知の獸の如く、知る所を以て己を汚す。一彼ら禍なる哉、蓋彼等はカインの途を往き、ワラアムの利慾の迷に流れ、コレイの違逆の中に滅びたり。二彼等は爾の愛の晚餐を汚す者なり、爾等と共に宴して、懼るゝなく己を肥す。彼等は風に逐はるゝ水なき雲、再死し根拔かれたる果なき秋の樹、三己の穢を沫だつる海の猛浪、永遠の幽暗の備はりて待つ所の迷へる星なり。四アダムより第七世なるエノフは此の輩の事を預言して云へり、視よ、主は其萬萬の聖なる天使と共に臨みて、五審判を衆人に行ひ、凡の不敬虔の者が其不敬虔に由りて爲しし悉くの事、及び不敬虔なる罪人等が彼に對ひて言ひし悉くの頑なる言を責めんと。六彼等は怨言を言ひ、足るを知らざる者、其慾を縦にして不敬虔と不法とを行ふ者なり、其口は誇りたる言を出し、利の爲に人に諂ふ。七然れども爾等至愛の者よ、我等の主イイスス、ハリストスの諸使徒が曩に言ひし言を憶へ。八蓋彼等は爾等に謂へり、末の時に嘲ける者ありて、己の不敬虔の慾に従ひて行

はん。元此の輩、己を唯一の信より區別する者は、靈に屬して、神を有たざる者なり。二〇至愛の者よ、爾等は己を爾等の至聖なる信に建て、聖神に藉りて禱り、二二己を神の愛に護りて、我等の主イエス ハリストスより永遠の生命を得しむる慈憐を待て。二三或者は、其狀を察して、之を矜み、二三或者は懼を以て之を救ひて、火より脱れしめ、みづから 自ら懼を以て之を責めて、肉に汚されたる衣だに惡め。二四能く爾等を護りて躓かしめず、爾等に疵なくして歡びて、其光榮の前に立つを得しむる二五獨一睿知の神、我等の救主に、我等の主イエス ハリストスに由りて、光榮及び威嚴、能力及び權柄は世世の先にも、今にも、萬世にも歸す「アミン」。